

石巻市震災伝承検討委員会 先進地視察報告

平成26年2月4日～6日

【参加委員】

谷川	正明	委員	湯目	隆之	委員
齋藤	敏子	委員	藤間	千尋	委員
菅野	健寿	委員	青木	絵美	委員
石塚	昌志	委員			

(事務局)

石巻市復興政策部復興政策課
ランドブレイン(株)

【視察先】

兵庫県淡路市、神戸市

- ① 北淡震災記念公園（野島断層保存館、神戸の壁）
- ② 神戸港震災メモリアルパーク
- ③ 人と防災未来センター

長崎県島原市、南島原市

- ④ 雲仙岳災害記念館
- ⑤ 土石流被災家屋保存公園
- ⑥ 火砕流最長到達地点
- ⑦ 旧大野木場小学校
- ⑧ 千本木展望所


① 北淡震災記念公園
(野島断層保存館、神戸の壁)



・地震で変形した道路、側溝、変形したあぜ道や生け垣が当時のままの形状をとどめている。



- ・メンテナンスは、表面樹脂コーティングを定期的 to 実施

- 
- ・一帯はしっかりとドームで覆われ、雨風の影響がない。
 - ・震災3年後にオープン(同時に国の天然記念物に指定)。
 - ・設置は旧北淡町。
 - ・現在は合併後の淡路市が民間に指定管理委託。



・保存までの決定は早かったが、住民の中には反対意見もあったとのこと。



- ・神戸市の市場にあった焼け残った壁。
- ・2009年から現在地に移設。
- ・分割して運ばれているため、ところどころにつぎはぎが確認できる。

・壁の裏面は鉄筋でしっかりと補強してある。





- ・被災民家の1棟をメモリアルハウスとして公開。
- ・1室で「語り部」の体験を聞くことができるが、実施時間が決まっており、この日は残念ながら聞くことはできなかった。



・台所は被災当時の写真をもとに再現している。



- ・別棟には、震度7の揺れと地鳴りを体感できるコーナーもある。

② 神戸港震災メモリアルパーク



・神戸、メリケンパークの一部の港を被災当時のまま保存。

- ・ぐるり1周できるように歩道と柵が整備されている。



・すぐ背後には、神戸港の歴史や復興を説明するパネルが数枚。モニュメントや記念碑の設置もある。





・周辺があまりにも綺麗かつ近代的なので、そのギャップを実感できるが、「港の復興をPRする場」としての位置付け感が強い。

③ 人と防災未来センター



- ・かなりの大規模施設で、展示内容も阪神淡路大震災を伝えるためには、十二分な充実ぶり。
- ・防災意識の向上にも力を入れている様子がところどころに感じられた。



・1.17シアター（撮影禁止のため写真なし）は、当時の震災が発生した時間の各地の様子をCGで再現し、大画面・大音響で体感させ、見る人に圧倒的な衝撃を与える。誰もが地震の恐怖を実感できる内容と感じた。




・各展示フロアには、説明をしてくれるボランティア（多くが高齢の方）が常駐している。

④ 雲仙岳災害記念館




- ・雲仙岳災害記念館では、施設建設の経緯や開館後の課題等についての説明を受け、震災伝承のあり方についての意見交換を行った。

- 
- ・ここでは地域の住民が子どもたちに防災教育を通じて震災を伝承する仕組みとして「地域防災塾」というソフト事業に取り組んでいる。そして、それを受け継いだ子どもたちが大人になり、地域の伝承者になるという持続的な取り組み。



- ・ 開館初年度の入館者は35万人だったが、昨年度は11万人にまで減少。入館者の減少に伴い、自立運営が困難なため、財団所有の基金を取り崩して経営を維持している。


- 
- ・設置は長崎県。公益財団法人雲仙岳災害記念財団が指定管理で運営（館長以下24名）。
 - ・整備費約43億円、RC造2階建て、延べ床5,904m²、敷地は6haと広大。

⑤ 土石流被災家屋保存公園

なし本陣

あい公園

- ・平成11年、隣接する「みちの駅」とともにオープン。
(設置者:長崎県、整備費:約4億円)

- 
- ・ 家屋が土石流に埋もれた状態のまま保存されており、そのうち3軒はドームで覆って維持管理を行っている。

- ・長崎県からの指定管理委託を南島原市が受託し、維持管理を行っている。（年間200万円程度）

- 
- A photograph of a traditional Japanese wooden building with a tiled roof, displayed under a large glass and steel structure. The building is made of dark wood and has a complex, multi-tiered roof with several gables. The roof is covered in dark brown tiles. The building is surrounded by a dirt ground with some rocks. In the background, there is a modern building with a glass facade and a steel frame. The sky is overcast.
- ・みちの駅と隣接、無料公開としていることから、来場者は年間40～50万人に達する。

⑥ 火砕流最長到達地点

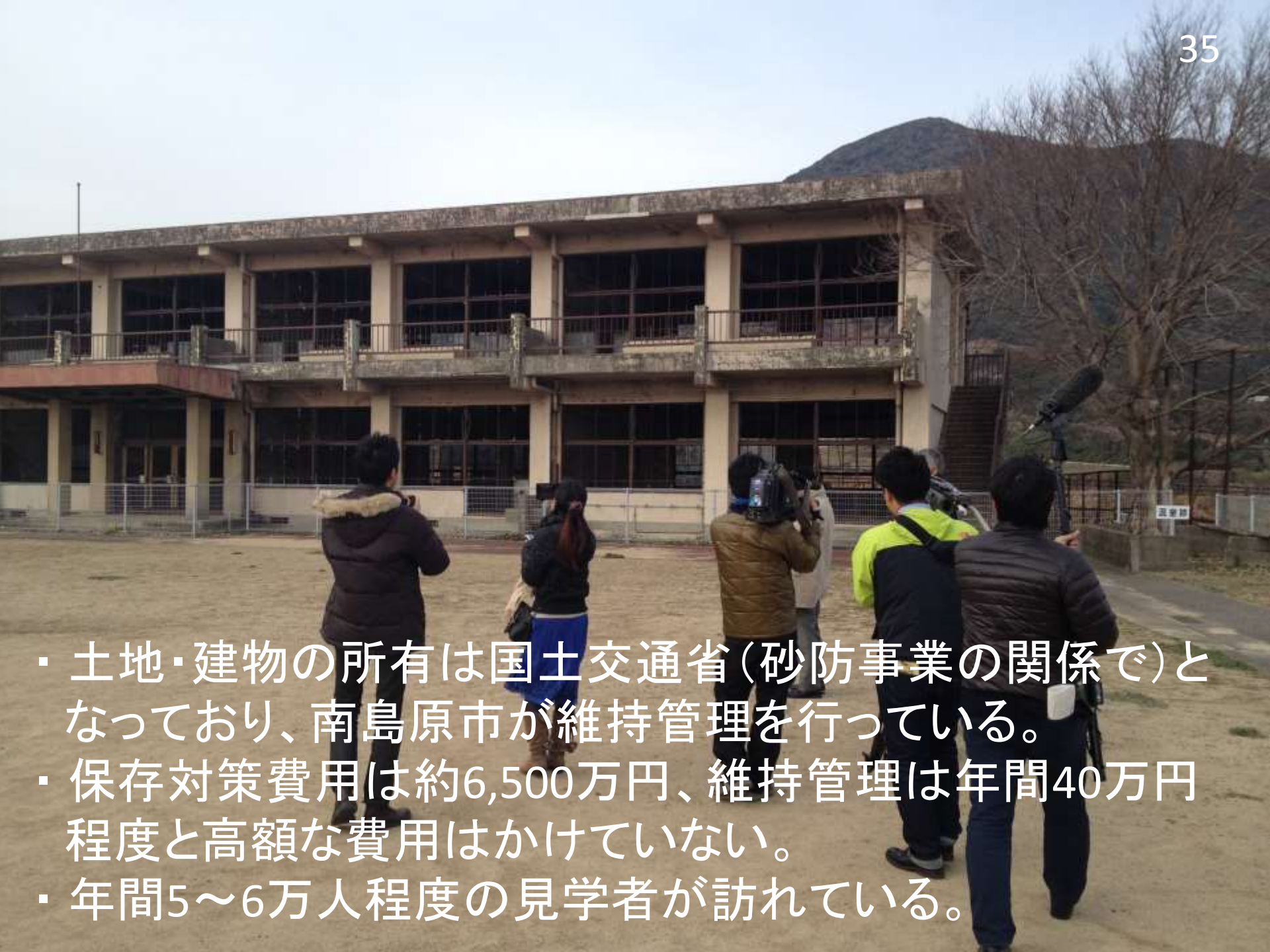


- ・ 芝生の公園として整備されており、到達地点の印と説明版のみがある。



・雲仙岳を正面に見ると、大自然の驚異を体感できる。
(土石流被災家屋保存公園から旧大野木場小学校までの
動線上にある。)

⑦ 旧大野木場小学校

- 
- ・土地・建物の所有は国土交通省（砂防事業の関係で）となっており、南島原市が維持管理を行っている。
 - ・保存対策費用は約6,500万円、維持管理は年間40万円程度と高額な費用はかけていない。
 - ・年間5～6万人程度の見学者が訪れている。



- 窓には、鳥の侵入を防ぐ防護網を張っている。
- 内部には手を加えていない。



- ・ 建物を見るだけで伝わってくるものはあったが、現地で詳細の説明を行う語り部などがいれば、伝承の効果は倍増すように思えた。

- 
- ・敷地のすぐ隣に、国土交通省の砂防管理事務所が立地、展示室等を併設している。

⑧ 千本木展望所



・千本木展望所はジオパーク構想の関係で環境省事業により整備されたもの。